

## 浦ノ内湾における赤潮発生予察情報 R5-2

### 【概要】

- ・ 令和5年7月27日の環境調査で、鳴無定点におけるシャットネラ属の細胞密度が今季初めて1 mLあたり10細胞を超えました。
- ・ これまでの知見から、シャットネラ属の細胞密度が10細胞/mLを超えると、その後1～2週間で漁業被害が強く懸念される密度（100細胞/mL）に達する傾向があります。
- ・ また、現在深度5mにおける水温は25.0℃であり、シャットネラ属の増殖に好適な環境にあることから、今後急激に増殖する可能性があります。
- ・ これらのことから、今後当該プランクトンにとって好適な環境が続けば、8月上旬には100細胞/mLに達する可能性が高いと考えられますので、十分注意してください。

### 【赤潮発生予察について】

- ・ 水産試験場では、過去の浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイとシャットネラ属の赤潮発生状況をデータ化し、赤潮発生シナリオを構築しました。
- ・ そのシナリオから赤潮発生予察マニュアルを令和3年度に作成し、令和4年度から予察情報を提供しています。

### 【シャットネラ属の赤潮発生予察マニュアル】

- ① 海水中のシャットネラ属の遺伝子量が増加傾向にあると赤潮の発生リスクが高い
- ② 調査定点の細胞密度が10細胞/mLを超えると、平均1～2週間で100細胞/mL以上に増殖（これまでの赤潮発生までの日数：最短2日、最長41日）
- ③ 深度5mの水温が22℃以上になると、赤潮が発生する傾向がある

※この予測情報は、昨年度から提供を開始したもので、今後も精度向上につとめていきます。予測どおりにならないことも考えられますので、現場の状況に十分注意して、養殖作業を行ってください。

以上